

1. 学校の教育目標

- 明るい子 ～「自分の個性を理解し、自己実現を図ろうとする『明るい子ども』を育てるために、探究的な学びを通して課題を把握し、解決の見通しをもって取り組む力を養う。～
- 正しい子 ～「学校生活・社会生活を創る『正しい子ども』を育てるために、挨拶の励行と規範意識・情報モラルの醸成を通して豊かな人間関係を養うことを重視する。～
- たくましい子～「力を合わせて達成する『たくましい子ども』を育てるために、多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を養うとともに、心身の健康づくりを進める。～

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

（目標）

本校の「教育目標」「学校経営方針」「明正の教育」「学校関係者評価アンケート結果」に基づき、実施してきた教育活動、経営活動を総合的、客観的に評価し、新年度を待たなくても今すぐに改善できる内容は改善する。また、結果に基づいて来年度の教育課程を編成し、本校の教育の充実、向上を図る。

（計画）

- (1) 学校関係者評価を行う。～12月始～
- (2) これまでの教育課程の実践について、どの程度達成できたか、項目ごとに評価する。12月
- (3) 学校独自の自己評価点検表に記入し、アンケート項目に沿って数値化する。12月
- (3) 個人、学年で評価し、改善策を記述し、末尾に（学年）を明記し学年単位で入力する。12月
- (4) 割り当てに沿って各分科会で個人・学年評価を検討し、改善策を参考に具体的な提案を検討する。1月
- (5) 学校評価全体会で分科会提案を検討する。1月
- (6) 管理職が主幹教諭や主任教諭から、来年度に向けた具体的な計画作成のためのヒアリングを行う。

3. 学校評価（自己評価）まとめ ※全体会と主幹教諭、主任教諭からのヒアリングを基に作成

NO	評価項目	成果	課題	改善策
1	教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式で子どもたち全体に伝えているので、よく子どもたちが理解していた。 	特になし	特になし
2	学校の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用については「個別最適な学び」の実現に向けて、積極的な活用をしていくことができた。 ・いじめの早期発見、早期対応に向けて、管理職、生活指導部を中心に組織的対応ができていた。 ・昨年度より挨拶を自分からする子どもが増えた。挨拶運動の取組がきている。 	特になし	特になし
3	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の意思疎通がとられていた。 ・総合的な学習の時間を中心に、地域の人材活用や子どもの探究心を生かした授業づくりが実施できている。 	特になし	特になし
4	各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の道具置き場が整理されていた。 ・毎年、学校全体の授業力の向上が見られる。OJTは有意義な場である。明正が研究し 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の保育園との交流も年間計画に入れてほしい。 ・体育の内容が、他の学年と重なることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の保育園との交流は年間指導計画に入れていく。今年度の実績として入れていくが、保育園と打ち合わせを行って、変更していくこともある。 ・前年度から用具の出し入れを容易にするために、同じ時期に同じような領域の活動を行えるようにし

		<p>てきた総合的な学習のやり方が浸透し、各教科でも探究的なスパイラルで指導ができています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 体育の系統性のなさ(内容が希薄)、安全面や用具の使い方の共通理解の少なさ。 • 器械運動は週一度では高まらない。時間の組み方を学年内で調整することも検討していけないか。指導要領改訂に伴う、評価規準の理解が浸透していない。評価・指導の重点の理解を高めていきたい。 • 体育の服装について明正スタンダードの確認があったが、徹底されてない。特に、体育着の下の長袖、髪の毛の長い児童が結んでいない等。 	<p>た。しかし、鉄棒運動の時期が重なってしまうと実施が難しかった。次年度は鉄棒の実施時期がずらせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指導事項にさらに系統性をもたせ、一貫性のある指導が保証できるよう、系統表に各学年において身に付けるべき動きと、それに向けた場・ルールの工夫を載せることにした。 • 学年に一人、体育担当の教員をつくる。基本的に体力向上部がその役割を担う。学習カード、使用する用具、安全面への配慮事項などの提案を行えるようにする。また、ミニ研修や回覧を通して明正スタンダードを含めて、体育の行い方を広められるようにする。
5	特別の教科道徳	<ul style="list-style-type: none"> • 交換授業等を実施し、担任が学年内を動き、横断的に道徳の学習を展開することができ、あらゆる視点で児童を指導したり、見守ったりすることができた。 • 道徳授業地区公開講座では、重点指導内容に基づき、価値項目が統一されていてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 道徳地区公開講座の内容項目をもう少し早く伝えてほしかった。ほとんど終えてしまっていて、残っているものから選ぶことしかできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 次年度の実施時期に合わせて、項目については早いうちに周知する。道徳の全体計画が固まり次第、来年度の重点目標が決まるので、それに合わせて道徳地区公開講座の価値項目を決める。
6	総合的な	<ul style="list-style-type: none"> • 他学年の取組が見えるため 	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年度の研究としての総合が引き継いで 	<ul style="list-style-type: none"> • 総合の着手が遅れたという学年もあったため、探

	学習の時間	<p>、子どもたちが見通しをもてるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年として計画的に実施し、人・もの・ことと関わりながら、環境に対して能動的に学びを深めることができた。 ・各学年で、これまでの研究を生かした取組が行われている。 ・人材バンクが効果的。 	<p>いない。計画の希薄さ。確認の甘さ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの流れが今後も継続できるように引き継いでいくことが必要。 ・外部講師を呼ぶときに、専科との兼ね合いが難しかった。 ・以前までたくさんの外部講師を呼んで行うやり方は実現不可能になってきている。 ・総合の外部人材の活用を行う際は、専科やすまいる、時間講師等、時間調整が難しい教科の時間帯に当てないようにしてほしい。 	<p>究的な学習部会の担当が4, 5月の計画段階で確認して助言する。また、探究のぐるぐるの図に、今年度どの時期に実施したかの時期、呼んだ外部講師を示していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクの引継ぎを行う。年度始めや、毎月の三部会で共有する。また、外部講師のもとへ出かける活動も、他の授業に支障のない範囲で実施する。総合を持続可能なものにしていきながら、子どもにとっての必然性や子どもたちの主体性を大事に、探究のサイクルを大事にする総合を続ける。
7	教科「日本語」	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流の一環として習字を教えてもらう学習をしたことがとてもよかった。 ・専科がいたことで効果があった。 		
8	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会では、教具を統一し、校内研究を積み重ねることで明正スタンダードの確立の第一歩になったと思う。 ・縦割り班活動では、活動の反省を生かして活動計画表を変えていくことで、スムーズに活動することができた。 ・縦割り班の取組が良かった。異学年の交流ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会の温度差があるため、学年で統一していくとよい。 ・全ての学級で同じ話合いのスキルを身に付けさせたり、共通理解をし合ったりすることが足りていない。 ・縦割り班活動の取組が班ごとに差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会に関する温度差が生まれないよう、学年間でも積極的にOJTを行っていく。また、実践内容を全体に共有する。自主研修会とするより、全員参加の方が良いので、校内研究の日として設定する。 ・縦割り班活動について ・体力テスト、学習発表会（展覧会）を行うときの観賞を兄弟学年の縦割り班で行う。 ・読書 week に縦割り班の兄弟学年で読み聞かせを行う。 ・5、6年生の引継ぎ会を2学期末に行う。→1月は

		<ul style="list-style-type: none"> 。 ・研究を行ったことにより、学校全体として授業の質が向上したように思う。 ・縦割り班活動が計画的かつ活発になっていた。 ・振り返りの視点があり、効果があった。 ・学級会のスタンダードを研究授業を通して、提案し実施することができた。 ・校内研究で全体の意識が高まっている。 ・明正スタンダードがあることで誰でも安心して授業がしやすくなったのではないか。 ・縦割り班活動は有効である。回数も適切である。 ・コロナ禍があけて集団で集まれる機会が増えたため集会活動を計画的に回数を整え行ってよいかと思う。 ・クラブ委員会では、児童主体の取組が定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間とやりたいことの時間のバランスがよくない。 ・縦割り班活動や学級会に向けての話合い、委員会活動など、児童が休み時間にやることが多い。またそれが授業時間にかかることもある。 ・児童集会の枠が少ない。 ・集会の日程を児童と相談して決めているため、担当教員に情報が回らず、準備に困った。 ・クラブ終了時の体育着の持ち帰りが統一されていない。 	<p>5、6年生で行い、2、3月は5年生が中心で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間と内容のバランス ・内容として学級会の準備や行事の実行委員、たてわり、クラブ、委員会の活動がある。 ・原則委員長とクラブ長の兼任はしない。 ・掃除の時間を活用・委員会準備は12:50以降に行う。給食時間を確保するため全校統一で。 <p>・集会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会委員会を行う際に、学級ごとに並んで行う集会や縦割り班ごとに並んで行う集会などいくつかのバリエーションを児童と相談していきながら行う。 ・4月に年間の集会計画を立てる。→集会が必要か、いつ頃、何回ほしいかを確認する。 ・最初の代表委員会で集会を割り振り、教員に周知する。 ・クラブの体操服は、看護当番が放送で呼びかける。
9	外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物がとてもよく、児童がよく見ている。 ・シヨーン先生がひまわりの 	特になし	特になし

		<p>児童の名前をみんな覚えてくれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別は子どもたちの意欲が高まるきっかけになっている。 		
10	生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの使い方やせっけんの使い方等、課題があったが良くなってきた。 ・Q-Uが児童理解、学級経営の見直しに活用することができた。 ・体育館の遊ぶ場所を区別して、安全面が確保された。 ・上履きを踏む、持ち帰るなど継続的に持ち帰らせるよう声掛けをして、成果が出た。 ・右側を歩く掲示の効果が出ているように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に使っている道具が学級によって違うように思う時がある。 ・雨の日の遊びは、カードゲーム以外にものもよい。 ・雨の日に校庭に入って帰る子が多い。 ・残留児童の連絡の徹底。 ・他学年の児童が廊下にいることがある。 ・屋上遊びを待っている子の待ち方が危ないと感じる。 ・学校全体でトイレの使い方、廊下の歩行、下校の時間意識、下校時の歩き方。 ・廊下遊びをする児童が危険。 ・挨拶が少ない。 ・廊下の歩行、話の聞き方、上履きの履き方、服装など基本的な生活のルールが徹底されていない。 ・遅刻する児童が多すぎる。また、遅刻しているのに一人で登校している児童が多い。保護者に協力してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の日、休み時間に使用できる遊び道具については教室での格差や担任の負担とならないよう生活指導で用意する。 ・生活指導部、北玄関利用学級を中心に下校時に担任が校庭まで見送るようにする。 ・残留児童を記載するホワイトボードへの記載を徹底する。 ・明正小のきまりを確認し、用がないのに校舎内を徘徊することがないよう指導する。 ・屋上が開くのを待つ際は、階段右側に一列に並んで待つ。 ・月曜日の朝、8:30前に看護当番長が全校放送する。 ・遅刻をしないように、また遅刻する際には保護者の同伴が必要であることを保護者会で強調する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・開始時刻に始まらないことが多々ある。すまいるにも開始時刻に間に合わせるようにする。遅刻児童が多すぎる。全体的に時間を守ることが徹底されていないように感じる。下校時間がバラバラ。 ・落とし物が多い。物の管理は学校全体で取り組みたいと思う。 ・体育館遊びの安全管理が難しい。 ・廊下歩行の掲示について。子どもが意識しやすいように床にも掲示してほしい。(天井だと見ない子も多いため) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、帰りの会、児童会活動なども指導者が終了時刻を守るように気を付ける。 ・落とし物の解消のために、落とし物を各教室に回したり、こまめに処分したりする。 ・休み時間、体育館割り当ての学年の半分を校庭に出して、校庭の具合を検討する。 ・廊下にも矢印を設ける(方法や時期は用務主事と相談)
11	キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートがあったことで児童の振り返りができていた。また、保護者との連携につながっていた。 ・キャリアアップシートの成果が大きい。一人一人の自己理解を深め、教師からの価値付けも具体的になった。 ・キャリア教育の体制や理解に向け、部会を中心に進めることができた。 ・都の「児童生徒の学力向上を図る調査」では、学習することは将来の仕事や生活に役立つという数値が前年度より 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの改善の余地がある。今年度は学級目標に寄り過ぎているので、自分像の軸を来年度に向けて提案したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートは、今年度のよいところを残しつつ、改善をしていく。 良かった点としては、①学級目標に寄り過ぎているが、学校目標・学年目標につながっていて一貫性があるので、「目指す自分像」を設定するにはいい。 ②目指す児童像を各学期に設定するのは、低学年にはよい。などがある。 改善点としては、①学習面の目標を学級目標に関係させて書くことに難しい面もあった。 ②・各学期の振り返りは、学習面だけでなく生活面でもあった方がいい。などがある。

		<p>も上がっている。引き続き将来を見越した指導や声掛けを各教科、特別活動等の時間に行っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で実践されているようだった。 ・キャリアパスポートを学校で統一してスタートできた。 		
12	特別な配慮が必要な児童への指導	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の支援はとてもありがたい。 ・管理職が教室を巡回し、児童に声掛けをしてくださったのが、ありがたかった。 ・SC、すまいるとの連携がとれている。 ・友達同士のトラブルや学級の課題に、管理職やすまいる教員、カウンセラーが早急にサポートしてくださり助かった。 ・組織的な対応がなされている。 ・Q-Uやふれあいアンケートを通して、児童の不安や不満を見取り、解決に向けて学年全体で動くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室にいられない児童、不登校児童への対応が具体的でなく、後手に回っている。 ・特別支援校内委員会の運営の仕方をより効果的にしたい。 ・児童のクールダウンする場所や方法を学校で統一する必要があるように感じる。 ・別室対応が必要な児童は事前に配慮事項を詳しく情報共有してほしい。生活指導夕会で伝えているがタイムラグがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期については、放送室のスタジオを活用していく。2学期以降設置される予定になっているほっとルームを活用する。使い方については今後検討していく。 ・①特別支援校内委員会の充実②c4thの活用③低中高の割り当てにかかわらず、緊急の対応は連絡報告する。
13	その他の特色ある	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の活用が効果的なものになっているので、今後も活 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山での学習は、事前に分かっているものは、年間計画に入れてもらえるとありが 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の活動については、明正小の特色になっているので年間計画の中に位置づける。いつ、どのような活

	教育活動	<p>用していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山トラスト、コア会議との連携が充実しており、よりよいまちづくりに対する意識が上がっている。 ・エイサーや駅伝の練習に多くの先生方が参加し、地域の方や児童と一緒に活動することができた。 	たい。	動があるのかについては、明正の教育に記載されているものを確認する。
14	年間授業時数	<ul style="list-style-type: none"> ・限界まで減らしてくれている。 ・余剰が少なく、とても心配していたが、臨機応変に時数を増やしていただき助かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・午後の会議や教材研究の時間が限られるので、40分授業にし、午後の時間を確保する。 ・余剰時数が少ないがゆえに、区からのアンケートや行事の準備などがあり、学習を進めることに苦労した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・40分授業については、手続き上や時数カウントが難しいため、時間の工夫を行うことで今まで通り45分授業にしていく。 ・余剰時数については、多すぎず、少なすぎず、学年の状況も鑑みながら判断していく。また、他校とも情報共有していき判断する。
15	学校行事	<ul style="list-style-type: none"> ・明正小まつりは児童の頑張りが見えてよかった。 ・児童にとってよい行事になっていた。 ・一堂に会して行事を行えるようになったことはよい。大切に継続していきたい。 ・明正小まつりの5、6年生のブースは高学年としての責任や自覚が芽生えたよい機会だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明正小まつりでは、時数をどの教科でどれくらいとるのか不明確だった。高学年が特に大変そうだなと思った。 ・今後も明正プロジェクトでなく、今回のような明正小まつりにしてはどうか。 ・内容を達成させるために子どもへの負担が大きくなっている場合がある。 ・明正小まつりのブース準備の時数をどの教科でとるか悩んだ。 ・時数管理が難しい。準備は行事でカウントしたほうが良いのではないか。(全校一斉準備時間のようなものを設けてみるなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・時数については、学校行事との兼ね合いにより判断することも多くなる。今年度は、70周年ということもあって、特別な日程となったが、次年度は、2学期学習発表会、3学期明正プロジェクトという、昨年度の形に戻していく。明正小まつりも昨年度と同様とするため、教育課程には位置付けない。時数については、その行事の特性に応じてカウントしていく。

			<p>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業式、終業式が時間に終わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式・終業式の児童代表の言葉については、始業式・終業式を今後体育館で行っていくことを考えると、時間通りに終わらないことも考えられるので、児童代表の言葉を学年で2名とする。学年集会の時間などに補うかについては、学年の実態に合わせていく。
16	健康・安全 保健	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導がありがたかった。 ・出欠状況の入力が大変助かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衝突事故が多かった。低学年ボールゾーンの入り乱れ方はなんとかならないか。 ・保健領域の学習を1月のタイミングでよかったのか、検討する必要がある。 ・保健室に長いことお世話になっている児童がいる。保健室でクールダウンをしている児童が多い。 ・朝の出欠確認に問題あり。登校時間を明確にして1分でも遅刻したら、職員室に内線を実際に確認して不明児童として連絡を徹底する。保護者も意識するようになる。児童の安全確保のためにも朝の会にいない場合は確実に連絡を行うことを徹底する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の遊びの幅ができるよう体力向上部から遊びの提案をする。 ・当該学年が指導経験や実績をもとに次年度の年間指導計画で改善する。体育の年間指導計画を体力向上部で取りまとめているため、体力向上部とも相談して作成する。 ・1単位時間以上滞在することになった場合は、原則早退させる。 ・すぐーへの入力には保護者会で強調する。
17	経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織がよく機能している。組織間の連携も少しずつとれるようになってきている。 ・生活指導夕会が情報共有の 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに周知した方がいい提案などは、しっかり掲示板に挙げていくべき。 ・職員会議の時間をもう少し短くできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の会議について見直し、企画→学年会にしていくもの（学年主任が学年に周知させていくもの）と、企画→職員会議にしていくもの（全体で確認が必要な内容）とに分けていく。また夕会や掲示板で伝え

		<p>よい場になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議が長い。口頭で伝えるのは昨年度からの変更点と大事なところのみで良いと思う。あとは資料に書いてあるので「読んでおいてください」として省略してよいのではないか。(どちらにしろ行事前には資料で確認すると思うので) ・学年主任会と企画会、職員会議の内容がかぶっていて働き方改革と逆行している。 ・企画会は、学年主任が出る必要性がなかった。会の提案者がよい。事前に起案している物は、議論することがない。学年で確認してほしいことは、臨時で会議をする。 ・生活指導と教育相談を一緒にしたことで時間が減った。学年の情報共有ができてない。 ・会議が多い。 ・企画会と職員会議とで内容に差がさほどない。職員会議の時間を軽減。 ・企画で話し合ったことをもとに部会にもって修正をし、修正案を起案する流れになると企画で様々な意見が出るのではないかと。 	<p>られることも整理し、掲示板で伝えたものは夕会での確認をしないことを改めて確認する。</p>
18	研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会でやってきたことが他の授業や話合いでも生きているのが目に見えて分かる。 ・研究したことがなかったのので、よかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTに来る人來ない人が分かっている。先生たちのゆとりがなく、プラスアルファがしんどくなっている。 ・研究授業で残ったクラスの負担を軽減させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTについては、今年度たくさんの先生方が参加しているので、今後も日程調整をして先生方が参加しやすいようにしていく。 ・研究授業の学級を1時間早く帰すことについては、低学年を1時間前倒して帰すのは難しいため現状

		<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの参加率が高く、日々学びになっているように思う。 ・OJTが盛り上がっている。いろいろな教科が取り上げられていて勉強になる。個人の強みを全体で共有できている。 ・校内研究は、学級会の流れややり方が分かってよかった。 ・OJT研修では、若手教員が司会や板書、計画を立ててくれたので充実したものとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回という事もあり、研究の全体像が見えにくかった。 ・自主研修という機会が何度かあったが、指導案を出して協議会を全体とするなら、校内研究の日とし、勤務時間として設定してほしい。 ・校内研究会の協議会と休憩時間が重なっていた。(自主研修という形ではあったが) 	<p>通りにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の協議会については、次年度は年度当初に休憩時間と重ねず、協議会の時間を確保できるように設定していく。
19	情報 ICT	<ul style="list-style-type: none"> ・アイパッドをうまく使えている。 ・ロイロノートの活用が出来る。 ・C4 t hの連携が取れている。 ・休み時間のタイピング、スクラッチの禁止を学年内で徹底して、効果があった。児童同士の関わりが増えた。 ・プロジェクターの音がスピーカーにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの使い方、使っていいアプリ、使っていい時間帯などが学級によって統一されていない気がする。児童から「あのクラスだけいいな」といった声があがっている。 ・物品の点検が追い付かず、学習活動に支障が出たことがあった。更新をするための人員が不足している。 ・iPad上の情報を見られない職員には、紙ベースで情報がほしい。 ・借りた物を確実に返却する。情報機器が戻されないことが多すぎる。プロジェクタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTルールは教室に掲示済み。学年主任会や、ICT部を中心に教師の共通認識を深めていく。使用可能アプリについてはまだ探っている段階。実態を把握しながら、共通する方向性を出していく。学年に一人ICT担当を設定する。各種機材の管理や必要な作業時に責任者として機能してもらう。 ・必要なものは紙ベースで出せる教員が用意する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員を有効に活用できている。 ・テレビにすぐミラーリングできるのは授業で支援が必要な子だったり全体に指示を出したりするとき役に立つ。 ・ICTサポーターのサポートありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一、マイク等。 	
20	施設・設備		<ul style="list-style-type: none"> ・校内の時計がチャイムと合っていないものがある。 ・和式便器使えない児童が結構いる。洋式にできないか。 ・体育館の倉庫の扉が勢いよく閉まってしまいう上、扉も重たいため、児童が指を挟んでしまったら大けがにつながる。 ・学習活動の充実のため、電子黒板が体育館と理科室欲しい。理科室はTVでもよい。 ・ゼッケンが少ない。使いたいときにかごがないことが多い。持っていつている学級がある？使ったら同じ場所に返すことをしっかり周知してほしい。 ・体育館と校庭の出入り口を跳び箱でふさいでいるが、他に置き場がないか考えたい。 ・体力テストの道具、体育の用具、鍵等が 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムがずれてしまうので毎学期の始業式前日に担当者が合わせていく。 ・トイレについては、施設課に要望している。随時改修していく予定になっている。 ・体育館の扉については、主事に伝え、改善していく。 ・大型テレビについては、今後どれくらいの価格になるのかを調べて、備品として購入できるか検討していく。 ・再度仕分け済み。表示も作成中。授業を早めに切り上げて、もとにあった場所に戻せるように教員がマネジメントしていく。 ・主事に依頼済み。 ・ポケットに入れっぱなしにならないような工夫を

			<p>見当たらないことがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室の鍵を借りる際、クラスタグを確実に活用して、鍵迷子にならないようにする。体育倉庫鍵が無くなりすぎ。高音楽室にもテレビを。保健室にルーターを要望する。教室は来年度以降足りるのでしょうか。個別対応教室はいつ新設されるのかどのように運用して、だれが対応するのか詳細を明確にしてほしい。 ・校庭の得点板が倒れやすい。また、低いので児童に当たりそうで怖い。体育館にあるようなしっかりしたものが欲しい。 	<p>施す。教員自身の意識。個別対応教室は改築計画が固まったばかりである。詳細は今後明らかにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒れにくいお手製の得点表があるので、それを有効活用していく。
21	出納・経理	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の払い込みに行く時間が厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私費関連は事務職員の担当外とのこと。スクールサポートスタッフが担当できるかを区教委に確認して、可能であればお願いしていく。
22	特別支援・教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・障害理解教育を実施できたことで、ひまわり学級への理解が深まった。ふれあい給食や交流給食が実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談全体会が年三回あるが、資料作成が大変な割に、広く浅く知るとどまっている。生活指導夕会があるので、そこで写真を見ながらこまめに共有するほうが良い。 ・より交流していきたい。 ・支援学級との交流について学級ごとの温度差が大きい。 ・会議の内容が周知されていないため児童を把握できないし対応をどうしたらよいかわからない。イニシャルでもいいので、C4thであげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり学級との交流相談会は、各学期当初に時間を設けられるよう次年度予定を組む。情報共有では、c4th ポータブルを活用する。 ・交流は、交流相談会で確認する。また、相手任せにせずお互いに声を掛け合う。学年内でも、偏りが出ないようにする。 ・いじめ防止委員会、特別支援校内委員会の活動内容については記録を共有し閲覧できるようにする。

23	給食	<ul style="list-style-type: none"> 給食のビデオがとても良かった。残菜が減った。 紅葉読書週間とからめたメニューが良かった。 完食への意識が高まってきた。班での給食で雰囲気が良い。 おいしいです！ありがとうございます。 給食室の様子VTRはとてもよい。子どもの食に対する興味、関心が高まっている。給食室の願いも知りたい。 食材や調理器具の実物を飾ったり、給食室の様子を映像で配信したりしてくださったことで、子供たちの給食への関心がすごく高まった。これからも続けてほしい。 	<p>おぼんやお皿の入れ物の取っ手部分が突き刺さって危険。</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチックのお皿にしてほしい。せめて低学年。(保護者より) 白衣の香害対策が必要。 <p>給食の形は前を向いたままがいいのか、班の形で食べてもいいのか。</p> <p>給食のルールが学年によってバラつきがある。補教に入った時に学級によって異なるため統一すべきことを明確にして方がよい。ごちそうさまの前に片付けを行うことは問題ないがその後の離席の児童が目立つ。給食準備前後の立ち歩きの児童の行動に問題を感じる。配膳の際食缶の前で話をする児童が目立つ。給食時間中に委員会の指導や聞き取りを行う場合、必要な場合は補教を立てた方がよいのでは。「食べる」時間は大切にする。黙食は無くなったが「しゃべってよいわけではない」ということを意識させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> お皿入れの学級プレートは順次回収している。今後も危険に気付いたら速やかに栄養士に伝える。 食器の材質は区の方針による。 定期的に、白衣を持参してよいことを学校だよりなどの刊行物で伝える。 給食のルールは学級の実態によるので統一することは難しい。ただし、学校給食指導年間計画と明正の教育「給食指導について」をもとに、食事が終わっても「ごちそうさまをするまでは立ち歩かない」など、基本的な項目を児童に明示する「給食のやくそく」を作成することは検討する。
24	読書・図書館	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に絵本室に行けないので、書庫にたくさん本を置いてもらえてありがたかった。 今年は、絵本室に司書さん 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室をいつでも図書室として使えるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室については次年度の学級数にもよるが、今年度と同様の学級数だとすると次年度も図書室が中学年算数室として利用されることになるため、図書室のみとして利用することはできない。

		<p>がいてくれたのでありがたかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司書さんがいてくれる日が多く、ありがたかった。 ・休み時間に司書さんにいていただいたり、授業に合わせた本を用意していただいているのでありがたかった。 ・算数室との兼用がなくなってよかった。図書室の利用時間が増えた。子どもも喜んでいる。 ・図書時間がもどって良かった。 		
25	自己点検の数値を受けて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携高い。今後も続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る→校舎が広く、移動に時間がかかるのも原因の一つか？ 言葉遣い→学童から学んでいることもある。授業中は「さん」をつけて呼ぶ、など、めりはりを付けさせたい。学校全体で、決まりにしたらどうか。 ・生活習慣・ルールの数値について ・個別指導計画は有効に活用しにくい。 ・連携型個別指導計画について。うまく活用することができなかった。 ・子どもたちの言葉遣いがとても気になる。特に大人に対しての言葉遣いが友達のようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「さん」付けは、「学習のきまり」など、どこに入れるべきか、文言をどうするべきかなど、検討している。 ・個別指導計画のファイルは、使いやすいようファイリングシステムの上階層に配置する。 ・次年度は、担任が手立てを立てるようにする。 ・学級会での話合い、道徳、学級指導を生かして、指導していく。月ごと・週ごとの生活目標を立てて、全体への指導を強化する。

			<ul style="list-style-type: none"> • 学び舎の数値について • 学び舎での授業参観の意義を明確にしてほしい。指導案もなく、中学校の参観では個別のテスト対策プリントをやっているところの参観だった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学び舎については、略案を用意し、授業のポイントが明確になるように学び舎に提案していく。
26	学校関係者評価アンケートを受けて	<p>1、学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習について肯定的に捉えている児童が多い。教員が教材研究を行い、ICTを活用しながら、日々授業改善に取り組んでいる成果である。 <p>2、生活指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校のきまりを守れている。 • 先生に注意されたことを理解している。感情的にならず、児童に寄り添った指導ができている。 <p>3、学校行事について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 児童主体の活動を大切にしたら結果、「意欲を大切にしている」の項目で高い数値となった。 <p>4、キャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 総合的な学習の時間でキャリア教育に取り組んだり、キャリアパスポートの活用がしっかりとできたりしているので、「自分の生き方や将来のこ 	<p>1、学習について</p> <p>「映像やタブレットを工夫しわかりやすい授業をしている」の項目の肯定的評価が低下している。</p> <p>3、学校行事について</p> <p>「学校行事の達成感」についての肯定的評価が約5ポイント下がって80パーセントを切っている。</p> <p>7、学校独自項目について</p> <p>「自分の考えを書いたり発表したりすることが楽しい」の項目の肯定的評価が低下している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 考えをもつことができない。考えることはできるが、自身がないので伝えるのは苦手。発表したときの周囲の反応が気になるなどが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 各教科のOJTを開く。 • 明正小まつりでの準備の忙しさやお店によって人気などに偏りがあり、達成感が得られにくかったことが考えられるので、今後同じような行事を行う際には、他学年に人が少ないところへ行ったり、高学年の気持ちを考えた回り方ができるように指導してから送り出す。 • ペアやグループで考えを確認し、スモールステップで全体発表への段階を踏む。 • 間違いを認め合う環境づくり。 • 肯定的な雰囲気づくり。 • 低学年や中学年のうちから書く経験をふやす。(日記等) • 学級会での反対意見の言い方を指導する。 • 自分の考えをもつ時間をしっかりと設ける。 • 答えは一つではない納得解を見付ける学習を取り入れていく。 • タブレットを使って書いたり発表したりすることもその活動の一つであることを伝えていく。

		<p>とについて、考える授業がある」の項目の肯定的評価が高い。</p> <p>7、学校独自項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親とよく話をしている。集予定の保護者チェック欄があることにより、保護者が学校のことを子どもと話しやすい。 ・体力向上部の働きかけや、定期的な体力づくり月間の開催により、児童の「すすんで運動している」、保護者の「体を動かす時間が足りている」の数値が上がっており、意識して運動に取り組めていることが表れている。 ・ICT、タブレットの扱いは改善されている。 	<p>「体育や休み時間に進んで運動している」の肯定的数値が80パーセント弱になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使った発表。 ・校庭割り当ての学年は、中休みは基本校庭で過ごすようにする。(昼休みは自由)
27	その他	<p>○教科担任制を実施して、授業準備、教材研究、成績の時の負担が大幅に減った。見取る視点が焦点化されたことで、成長をよく見とれた。学年全体の児童をチームで見られた。(2学年単位で見とる必要があるものは、5年からできていたらよかったものもある。)(一方で、個人の全体像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活時程表の登校時刻を8時10分～8時20分にしてほしい。 ・8時5分にもチャイムがあると、児童が校舎に入るタイミングが分かりやすい。 ・委員会やクラブの開始時間を5分遅らせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の登校時間は、保護者には8時15分～8時25分で周知している。児童にも定着をはかるため8時15分にチャイムを鳴らしている。ただ現状を考えると8時15分前に昇降口付近には児童が多くなってしまい、児童の安全管理が難しいことから8時5分入室できるようになっている。今後も混乱を避けるためこの流れで入室をさせていく。 ・委員会・クラブの開始時刻は、児童の隙間時間が長くなると安全上の問題が起きやすくなるために、今年度通り1時5分からにする。

	<p>が見えづらい、学級の深まりがなかなかできないという面もあった。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所見について、道徳を2学期に、総合を3学期にして学年のまとめの内容を記していきたい。 ・総合的な学習の時間の所見がまだ年度途中になってしまう。 ・学級閉鎖時のオンライン授業は時数にカウントされないのであればなくしてほしい。 ・学級閉鎖中のオンラインは時数にもカウントされないし、負担。その間に休養が必要な場合もある。担任不在でも行っていたのが大きな負担。 ・学級閉鎖時のオンライン学習の在り方は、時数カウントにもならない。全員が参加できるわけでもない。オンラインへの問い合わせも殺到。 ・連絡網を作りたい。保護者同士の連絡を円滑にしたい。 ・エイサーや明正小まつりの出し物を、勤務時間外でしか練習できないのはきつい。時間の確保をしてほしい。 ・学校公開で主要4教科を実施するという縛りは子どもの実態や学習の内容にそぐわないことがある。 ・諸帳簿の締め切りが早く、成績や出席が見込みになってしまう。評価を修正した後 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間の変容をみとるために2学期に総合、3学期に道徳を行っているので次年度も今年度と同様にしていく。総合の所見については、2学期に探究の評価をしていく今年度の流れを継続し、早めに総合に取り組んでいく。 ・学級閉鎖中のオンライン授業はやめていく。年度末から年度始めにかけて保護者に周知していく。課題配信はできる範囲内で行うようにする。 ・連絡網は個人情報保護の観点から、作成することはできない。 ・エイサーや明正小まつりの出し物については、有志による参加のため、勤務時間外の扱いになる。 ・土曜日の学校公開は、保護者からの要望もあり、国語、算数、理科、社会を最低1時間入れていくことを原則とするが、総合等で時間割を組みたい場合は相談に応じていく。 ・諸帳簿は、成績と所見が一致しない場合があり、同時に確認する必要がある。また、管理職も一人一人丁寧に見ていく必要があるため、今年度並みの提
--	---	---	--

			の管理職への再度、提出が必要になってくる。	出時期にしていく。
--	--	--	-----------------------	-----------